

—白馬・小谷・鬼無里の被災建物記録と

文化財レスキューの現場からみえてきたもの—



▶構造即意匠の土蔵の美しさに息をのむ

平成 27 年度 企画展

救い出された 地域の記憶



▶被災した土蔵から古文書を救出する



▶歴史を経た建物に職人の労苦をしのぶ

～神城断層地震から一年～

平成 27 年 10 月 24 日 | 土 | ~12 月 6 日 | 日 |

午前 9 時～午後 4 時 30 分 (入館は午後 4 時まで)

休館日 | 月曜日 (祝休日を除く) 及び祝休日の翌日 (土・日・祝休日を除く)

長野市立博物館 特別展示室

- 文化財レスキュー報告会 | ①11月 3日 (火祝) 午後 2 時～3 時 長谷川順一氏 (住まい空間研究所)
②11月 23 日 (月祝) 午後 2 時～3 時 渡邊義孝氏 (尾道市立大学非常勤講師)
- ギャラリートーク | 10月 24 日 (土)、31 日 (土)、11月 1 日 (日)、12月 6 日 (日) いずれも午後 2 時～

長野県北部では、昨年11月に神城断層地震が発生しました。白馬村や小谷村、長野市鬼無里のような被害が大きかった地域では家屋や土蔵が被災したため、建物やその中に保管されてきた様々なものをやむなく廃棄する事態となりました。

そこで博物館と県内外の研究者からなる被災建物・史料救援ネットが協力して、壊される建物の記録保存や、被災建物内に残された文化財のレスキュー活動を行ってきました。このようにして残った記録や文化財には、地域のかつての暮らしぶりや歴史といった“記憶”が刻み込まれています。

今回の展示では、神城断層地震から一年が経過しようとしている今、レスキュー活動によって救出・記録された文化財から、被災地の生活と文化を見直し、災害によって何が起こるかを考えます。

—展示の概要—

I. はじめに 地震発生からレスキュー活動の始動へ

- ①長野県神城断層地震の概要
- ②レスキュー活動の概要
 - ～調査レスキューされた被災建物・資料の分布状況
- ③地震被害の概要
- ④調査でわかった建物被害の特性
- ⑤伝統的建造物の挙動メカニズム



土倉文珠堂から救出された文殊菩薩像

II. 建物には何が残されていたのか

- ①白馬の旧家が大切にしてきたもの
- ②鬼無里のお寺が大切にしてきたもの

III. レスキューから見えてきた地域の生活

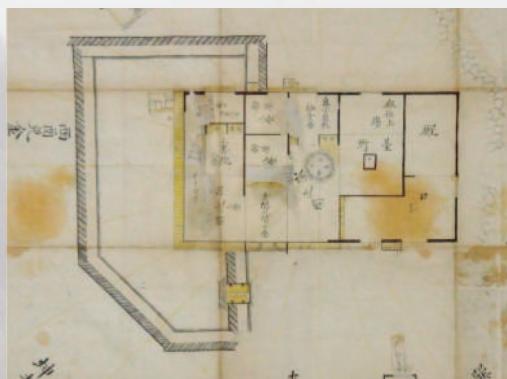
- ①土倉文珠堂が語る鬼無里と白馬のつながり
- ②小谷・白馬の伝統民家の間取りと造り
- ③被災地の土蔵～「くら」から見える風土と生活
- ④土壁からわかること
- ⑤棟札からみえてくる職人の仕事
- ⑥山のくらしと生業
- ⑦家を守り続けてきた物たち

IV. むすびに

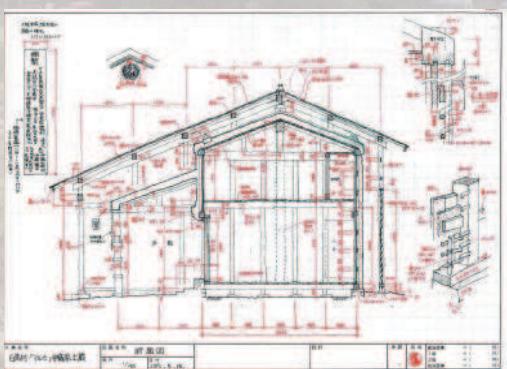
- ①古い民家は災害に弱くて危険なのか
- ②文化財レスキューの意味



土蔵に飾られていた小正月のモノヅクリ



旧家から救出した古記録（家相図）



明治 11 年築 白馬村神城中山の旧家土蔵の調査記録
(今回の地震で被災し、やむなく解体された)



〈アクセス〉

◆公共交通機関をご利用の場合
長野駅善光寺口バスのりば 3 番から
古戦場経由松代行に乗車「川中島古戦場」
にて下車(約 25 分)、徒歩 3 分。

◆お車をご利用の場合
長野 IC から善光寺方面へ 5 分
博物館駐車場をご利用ください。

〈入館料〉 大人 300 円 [240 円]
高校生 150 円 [120 円]
小中学生 100 円 [80 円]

◆[] 内は团体料金。毎週土曜日は小中学生無料、
11 月 3 日 (火祝) は入館無料です。

◆常設展示もあわせてご覧いただけます。

平成 27 年度 企画展

救い出された 地域の記憶

～神城断層地震から一年～

長野市立博物館
NAGANO CITY MUSEUM

Tel 381-2212 長野市小島田町 1414

Tel 026-284-9011

長野市立博物館

